

参加学生



東京大学3年
廣木 颯太郎 さん

何度も訪れると距離が近くなる、仲良くなる。

3回目の来訪時、「廣木くんは町民みたいなものだから」と声をかけてくれた方がいたり、分け隔てなく接していただいたりする中で、人との距離や地域に対する距離が近くなった、大きく変わった、と感じました。短い滞在期間であっても、何回も来ることで、地域の方と仲良くなれたことは大きな驚きです。

都市と地域では感覚が違う場面がある。

汗だくになりながら、ビニールハウスでキュウリの成長を進める手伝いをしました。繊細な作業で失敗もありましたが、温かい人柄にふれ、充足感のある体験でした。盆踊りの運営手伝いでは地域の方の「自分達でできることはやる」と、トラブルにも前向きに対処する姿を目の当たりにし、「プロに任せよう」と考える都市の感覚や意識の違いから、地域の方の生活力の高さを感じました。



東京大学大学院修士2年
二川 慎之介 さん

住んでいなくても、地域に参加する。

「住む」ことを迫るのではなく、移住定住の手前でゆるやかに地域と関わることが認められる活動は魅力があると思います。南越前町での経験は、私自身のこれからの生き方や暮らし方を考える貴重な時間となりました。



東京大学大学院修士1年
平岩 渉 さん

関わった地域の方

楽しみは力になる。

約5年、都市から来る若い人たちに農作業を手伝ってもらっています。来る人は初心者ばかりですが、若い人から色々な話を聞いたり、交流したり、刺激をもらっています。次はどんな人が来るのか楽しみ。挑戦するエネルギーになっています。



今庄園芸生産組合
田中 彦治郎 さん

一緒に取り組む仲間。

昨年の盆踊りの時に学生と関わりました。運営する側として担い手が少なくなる中、私達の間では盆踊りをやめようという話もあった中で、公民館長はじめ、流動創生のメンバーやそのイベントに参加されている方々、今回で言えば東大の学生さんたちにお手伝いいただいて、例年より賑やかに盆踊りを終えることができました。盆踊りへ来ていただいたお客さんが多かったことも一つではありますが、何より、運営側が一丸となって盛り上げようとしてくれている姿を見て感動しました。私達自身も、今まで以上に地域と関わっていきたくて明確な目標ができた盆踊りでした。



北村 優樹 さん 伊藤 伸朗 さん

出会いは宝。

宿泊先として、学生を受け入れました。滞在中の写真を集めてアルバムを手作りしました。宝物にしています。またいつでも来てほしいです。

関わりが広がってほしい。

学生たちと関わってみて、親しみやすいと気づきました。我々も若者の考え方を勉強しないとイケないと思っています。都市から来る若い人がいることを知らない人が多く、もったいないな、もっと関わって欲しいなと感じています。



宅良公民館長
永野 正義 さん



東京大学ホームステイ
2019年【令和元年9月8・9日】

歓喜寺の皆さん



東京大学
フィールドスタディ型
政策協働プログラム



- 1, 2. 今庄園芸生産組合・田中さんのビニールハウスにおいて、キュウリの苗木の調整や白菜の播種やナス・ピーマンの収穫の手伝い。丁寧に指導いただきながら作業をし、合間には農業の話や地域の話も伺う。
3. 長沢地区で蕎麦の種まきの手伝い。
- 4~6. たくら盆おどり大会では、綿菓子を出店、提灯の吊り下げ、荷物の運搬等の会場準備のほか、踊り手としても参加。
7. 地域の方との食事で交流。



町では、平成27年度より地域に関わる人の増加(流動創生事業)に取り組んできました。地域への入口として、多くの人を迎えてきましたが、地域の人、都市の人にとって、この取組にどのような価値があるのか、5年間を振り返る必要があります。

そこで今年度、東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム^{*}に参加する学生3名が、南越前町に計4回、延べ27日間滞在し、地域の暮らしに参加しながら、住民への聞き取りを行うなど「地域に関わる価値について調査しました。」

^{*}東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム：本プログラムは、東京大学が自治体と連携して実施するプログラムで、各地域が提示した課題に対し、地域の現場に入りながら、一年をかけて課題解決への道筋を提案するもの。地域課題に関心を持つ学生が、大学の授業以外の時間、夏季休暇などを利用して調査を実施。

地域に関わる 多様な方法

流動創生事業以外にも、地域に関わる選択肢もある。それぞれに合うかたちで、多彩な交流が広がる取組を応援しています。



地域資源体験 プログラム

参加学生

同志社大学 2年
大西 一葉さん、木村 安寿さん、
渋谷 咲希さん、中村 朱里さん、
朝倉 渚さん

同志社大学の学生 5 名が南越前町に計 3 回、延べ 7 日間滞在し、梅、ハス、つるし柿の生産を体験。生産者へのヒアリングやまち歩きなどを通し、学生の視点で「魅力ある地域資源」を発見し、若者世代に支持される地域資源の活用を探りました。

1. 河野にて完熟梅の収穫体験の後、選果作業体験
2. 河野梅生産組合の濱野さんからヒアリング
3. 堂宮のはす田で収穫体験
4. 南条蓮生産組合の井上さんから出荷作業を教えてください
- 5, 6. 今庄の地域まるっと体感宿村屋に宿泊しながら、ワークショップ
※学生と生産者をつなぐコーディネーターは、(一社)ぶらすたいむずの中谷翔さん(元南越前町地域おこし協力隊)

地域の
いいアピール
ポイントだと
思いました。

私の地元でもよく見れば多くの資源を見つけることができると思うきっかけになりました。

私にとっては普段見ることのできないものに触れ、新鮮さを感じました。同時に、もっといろいろな方に知ってもらいたいという気持ちが強くなっていきました。

地域との新しい 関わり方

地域の人でも地域外の人も含めて、地域の活動を維持したり、盛り上げていく、という考え方が全国的な広がりを見せています。観光に来る「交流人口」、居住する「定住人口」だけでなく、**住んでいなくても多様なかたちで地域に関わる「関係人口」という捉え方もあります。**地域と地域、都市と地域など多様なひとが出会い、交流することで、様々な「変化」が生まれます。地域の人でも地域外の人も含めて、「楽しい」「関わりたい」と感じるまちとなるよう、令和 2 年度から「まちみらい創造事業」の取組をスタートします。

問合せ 観光まちづくり課 ☎0778-47-8013

地域と都市 をつなぐ仕組み

南越前町に住んでいなくても、地域に関わる選択肢がある。何度も地域に足を運ぶ。地域の人と仲良くなる。流動創生事業では、そんな仕組みづくりを進めています。

流動創生事業

～都市の人とつながる企画～ CrossOver (クロスオーバー)

地方に興味のある人や生き方を考える人に対し、南越前町で開催している滞在企画などを紹介し、来訪のきっかけ作りに繋げています。



2月22日東京にて「次世代ローカルガバメント」と題して、トークイベントを開催

～南越前町の人とつながる滞在企画～ StopOver (ストップオーバー)

事業開始(平成 27 年)から
・開催回数: 33 回
・来訪者数: 延べ 222 人
・リピーター数: 49 人

南越前町に滞在しながら、地域行事や農作業の手伝いなど、地域に関わるイベントに参加する企画。主に都市の若い世代が来訪し、地域への入口となっています。



「ここに住んで」と言われると来にくい、都市以外で活動してみたい

都市住民

移住定住だけではなく何回でも「帰って来れる場所」になればいい

地域住民

頼りにされると再び訪れたい泊まる場所や活動があれば行きやすい

作業を助けてもらえて嬉しい都市からの来訪者が刺激になる

地域と都市の「人の交流」をコーディネート

都市から南越前町へやって来る方の受け入れを担当しています。いろいろな方がいらっしやる中で、地域の方となじめるように滞在中のように過ごすかを考えたりしています。地域の方に対しても失礼があってはいけないと注意も必要ですが、地域の人、都市の人の両方と交流できる「地域のクッション役」はとても楽しいです。



南越前町地域おこし協力隊 宇野 朱美さん

流動創生HP <http://ryudou-sousei.jp/> 流動創生Facebook <https://ja-jp.facebook.com/ryoudousousei/>

学生が流動創生事業について思うこと

「事業の継続と、地域の協力者拡大がポイント」

■ 地域の人と都市の人の交流は、双方の考え方にプラスの変化をもたらすなど、よい影響があることがわかりました。継続して取り組めるよう、移住を含めた暮らしの情報を加えたり、町内で運営協力者を増やしたりすることが必要だと思います。

■ アンケートや取材では、「環境が整えば都市からの参加者の受け入れに協力したい」と回答した地域の人が多いです。地域の人と協力しやすい仕組みを作りながら、活動拠点を増やすなど、取組を広げていけるとよいと考えます。



2月26日役場別館 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム 学生提言報告会